

## 講演要旨

### 『極域における混合過程解明のための乱流、二重拡散対流同時観測データの再解析』

海洋混合の素過程を解明することは、気候変動による海洋の応答を評価する際に不可欠である。塩分と熱の拡散係数の違いによって生じる二重拡散対流が海洋混合過程に与える影響はかねてより指摘されてきた。しかし、その実態は技術的な制限により未解明であった。そこで、二重拡散対流が顕著な北太平洋、ベーリング海にて過去に得られた海洋混合観測データを再解析し、海洋混合における二重拡散対流の役割を評価した。その結果は、新たな混合過程の存在を示唆するものであった。講演では、本研究の概要を紹介するとともに、今後の海洋混合過程観測の技術的な課題について述べる。